

# ビラ通信22号

## — 医療プログラム報告 —

### ■「薬草の手引き」各コミュニティに配布

『庭に薬草を植えよう』キャンペーンを続けるCMBは、手軽で、安くて、副作用がない薬草栽培・利用を一層すすめるため、各コミュニティに薬効や使用法が書かれた手引書の配布を決めました。このところ低調な識字教室も、これをテキストにすれば出席率が上向くかもしれません。(CMB機関紙「GONG」Vo.2, No.2より)

### ■巡回診療は当分、医師が日帰りできるコミュニティに限定

町に出る手段のない山深いコミュニティこそ巡回診療は必要ですが、現状では、多忙な医師に1泊2日のボランティア診療を依頼するのは困難で、日帰りできるコミュニティのみで実施され、年間合計6回程度です。

3月は、ティボリ町グルンガで、内科、歯科3名の医師の協力で実施されました。受診患者数はあわせて300名余り。めったにない受診の機会に山々を越えて患者が集まるため、1回当たり実施経費は、医薬品代及び医師へ薄謝などで2-3万円になります。(CMB医療プログラム責任者Fr.ルイーの6月10日付報告より)

### ■物価上昇と不作で、医療保険(グリッド・システム)の納入率最低

完納していれば、年間5,000ルピアまで医療費補助が出る相互扶助システムですが、これまでも会報で紹介したように、システムに対する理解不足のほか、今年度は現金収入がいつも増して少なく、1日1ルピア(2.6円)が納入できない住民が多かったようです。住民の自助努力を重視するCMBとしても、患者からの緊急要請には応えざるを得ず、当会支援の限られた医療予算のやりくりは大変で、医療スタッフの給与にしわ寄せされています。ちなみに助産婦ジョジョの給与は、最低賃金法の145ルピア(約380円)/日以下です。(GONG及びFr.ルイーの報告より)

### ■ジョジョのクリニック日誌(3-5月分)より

- 3/2 足の傷の出血がひどく、めまい、呼吸困難を訴えたロミオ・サン(HANDS/ハイスクール奨学生15歳)は、病院で縫合等の治療を受けた。
- 3/6 熱、咳、悪寒が続いたアルキカのテオドシオJr.(5歳)は、病院で治療を受けた。  
常備薬配布:5コミュニティに対して、ヘルスワーカー又は教師を通じて常備薬を配布。  
常備薬使用状況:3コミュニティで合計患者70名。主な症状は、頭痛30名。咳 24名、咳、頭痛を伴う発熱7名など。
- 4/26 高熱と頭痛のラムイロのウィルマ(29歳)は、検査の結果マラリアと判明した。  
常備薬使用状況:報告のあったのは2コミュニティで合計30名が利用。咳が最も多く13名。頭痛、下痢が続く。
- 5/18 高熱、嘔吐が続いたキアミのロッセル(10歳)はマラリアと診断され入院した。
- 5/28 熱、下痢、脱水症状が続いたバサグのジェーン(2歳)は、病院で治療を受けた。  
常備薬使用状況:報告のあった3コミュニティの合計患者は51名。頭痛14、下痢12名。

## — 教育プログラム報告 —

### ■新学期に備えて指導力向上を図る教師たち

ラムアフスとアトゥモロックの本校登録も完了して、新学期準備に多忙な日々を過ごすノーマ校長のもとに、DECS(教育文化スポーツ省)から1通の文書が届きました。「新年度からは、公私立ともに無資格で教えてはならない」との通達でした。CMBディレクターのFr.デオも慌てました。小学校教師16名のうち、大学の教育課程を終了し、かつ、政府の教員資格試験(LET)をパスしたものは、3名しかいなかったからからです。(講師の話に聞き入る教師たち)

DECSに直訴のため、Fr.デオは早速マニラに飛びました。有資格教師が来てくれない山岳部の初等教育現場の実状を説明した結果、なんとか例外措置が認められ、恒例の夏季教師研修にも力が入りました。ミンダナオ州立大学理学部長のアパレンテさん他1名を講師に迎えて実施されたこの6日間のセミナーで、指導技術はもとより、講師の教育に対する熱い心を学んだ教師たちは、新学期に向けてそれぞれ元気いっぱい山のコミュニティに戻りました。

(CMB機関紙「GONG」Vo.2No.2、現地メール報告より)

